

都市部と郡部における
在宅医療・介護サービス提供体制構築上の課題
—福岡県を事例として—

(内容)

1. 福岡県の概要—二次医療圏別にみた高齢化の状況—
2. 人口構造の変化の違い
3. 要介護認定率／介護サービス整備状況の違い
4. 在宅医療・介護サービス提供体制構築上の課題

国立社会保障・人口問題研究所

川越雅弘

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
3.宗像	150	11.6%

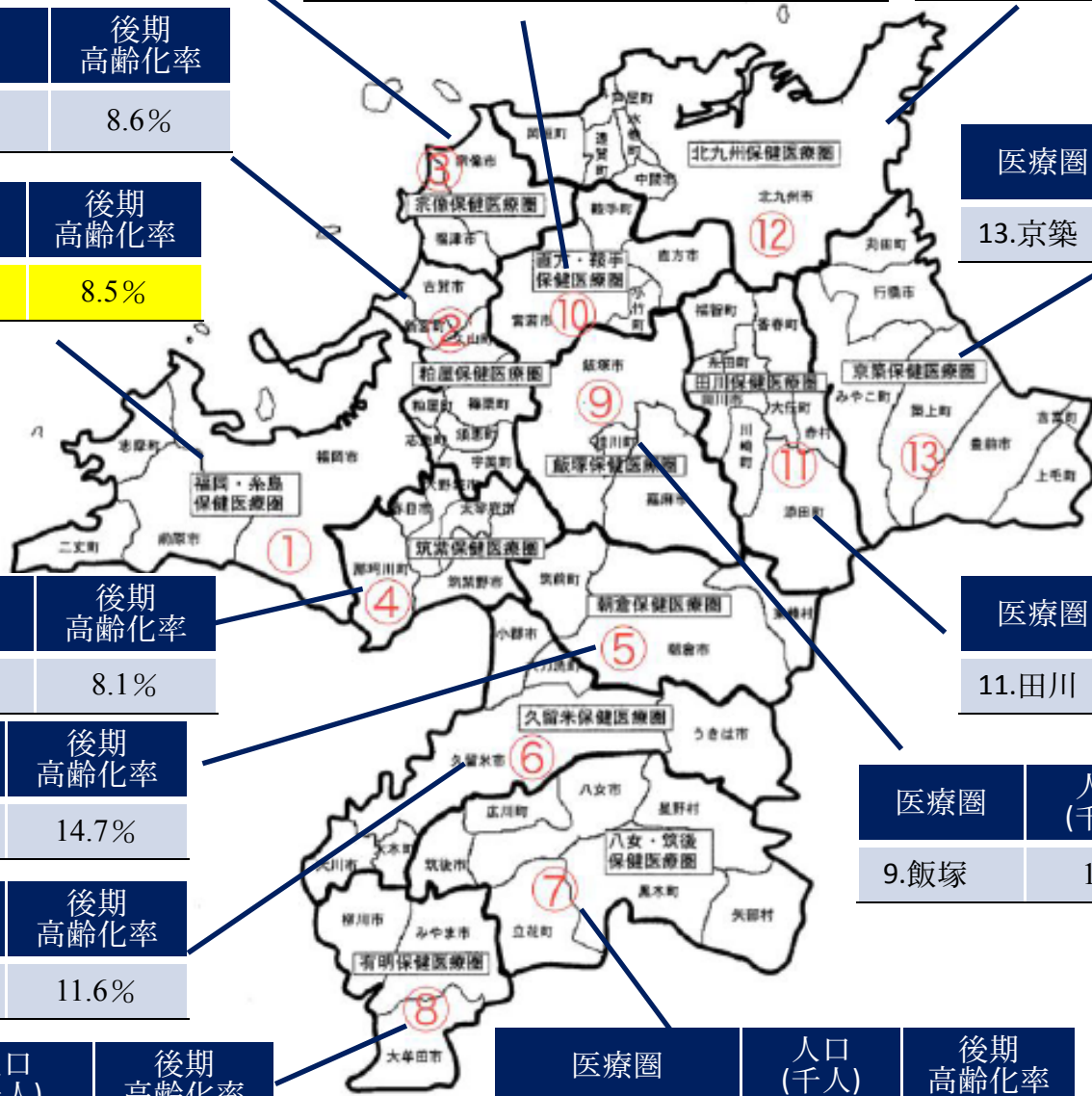
医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
10.直方・鞍手	111	15.4%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
12.北九州	1,108	12.6%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
2.粕屋	267	8.6%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
13.京築	186	13.6%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
1.福岡・糸島	1,543	8.5%



医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
4.筑紫	422	8.1%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
11.田川	134	15.8%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
5.朝倉	89	14.7%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
9.飯塚	187	14.1%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
6.久留米	463	11.6%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
8.有明	235	16.1%

医療圏	人口 (千人)	後期 高齢化率
7.八女・筑後	138	14.6%

2.人口構造の変化の違い

—2007～2011年間—

2-1.都市部と郡部の人口構造の変化の違い —2007-2011年間—

	福岡市			大牟田市		
	2007	2011	増加率	2007	2011	増加率
総人口	1,364 (100%)	1,409 (100%)	3.3%	131 (100%)	125 (100%)	▲4.7%
0-14	191 (14.0%)	197 (14.0%)	3.3%	16 (12.1%)	15 (11.7%)	▲8.0%
15-64	952 (69.8%)	965 (68.5%)	1.4%	78 (59.7%)	73 (58.6%)	▲6.4%
65-74	123 (9.0%)	129 (9.2%)	4.7%	18 (13.3%)	16 (13.1%)	▲6.7%
75以上	98 (7.2%)	118 (8.4%)	20.3%	20 (14.9%)	21 (16.7%)	7.1%



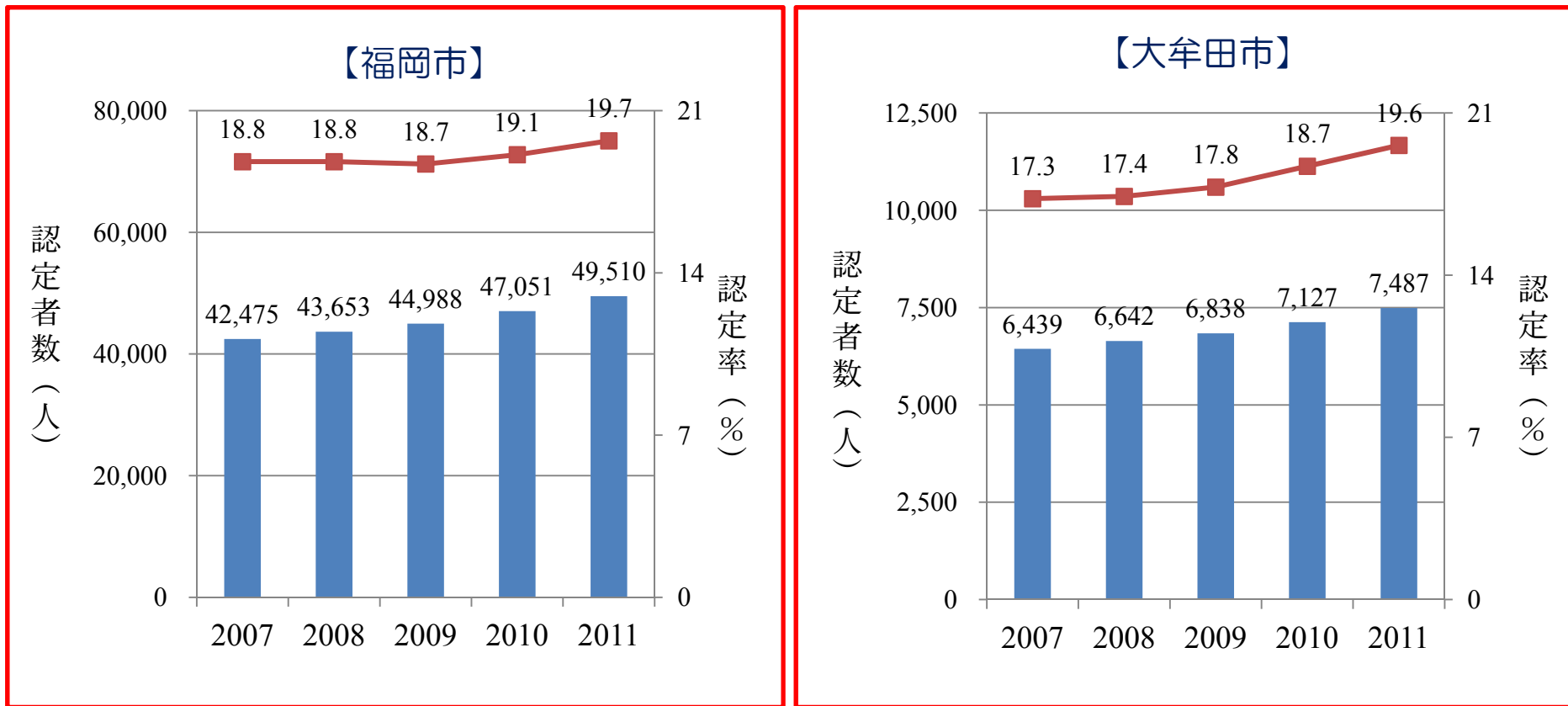
- ・ 総人口は「福岡市」3.3%増、「大牟田市」4.7%減。
- ・ 福岡市は全年齢階級で人口が増加、一方、大牟田市は75歳以上人口のみ増加。
- ・ 後期高齢化率は「福岡市」7.2→8.4% (+1.2point) に対し、「大牟田市」14.9→16.7%へ (+1.8point) →大牟田市の場合、分母（総人口）が減少する一方で、分子（後期高齢者数）は増加したため、分母、分子ともに増加した福岡市に比べ、相対的に後期高齢化率が増加している。

3.要介護認定率／介護サービス整備状況の違い

—2007～2011年間—

3-1.都市部と郡部の要介護認定率の変化の違い

—2007-2011年間—



・ 2007-2011年間の高齢者の増加率は「福岡市」11.6%、「大牟田市」0.6%に対し、認定者の伸び率は「福岡市」16.6%、「大牟田市」16.3%と、大牟田市では認定者伸び率が高齢者伸び率を大きく超過している。
→大牟田市の場合、認定率が低い前期高齢者数が減少している一方で、認定率が高い80歳以上人口が増加しているため、認定率が大きく伸びたと考えられる。

3-2.介護施設／居住系サービスの整備状況の違い

	福岡市 (2011)		大牟田市 (2011)	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
高齢者数	251,391	100%	37,201	100%
介護保険施設	7,440	2.96%	1,249	3.36%
グループホーム	1,550	0.62%	211	0.57%
特定施設	2,890	1.15%	241	0.65%



- ・大牟田市は、福岡市に比べ、介護保険施設の整備率が高い（対65歳以上人口比）。
- ・福岡市は、大牟田市に比べ、居住系サービス（グループホーム、特定施設）の整備率が高い。
→福岡市では今後85歳以上人口の急増が予想されている。
介護保険施設の整備は、都市部ではなかなか困難なため、居住系サービスや地域密着型サービスなどの整備の強化（地域包括ケアシステムの構築）がより求められる。

4.在宅医療／介護サービス提供体制構築上の課題

—都市部と郡部で異なる課題—

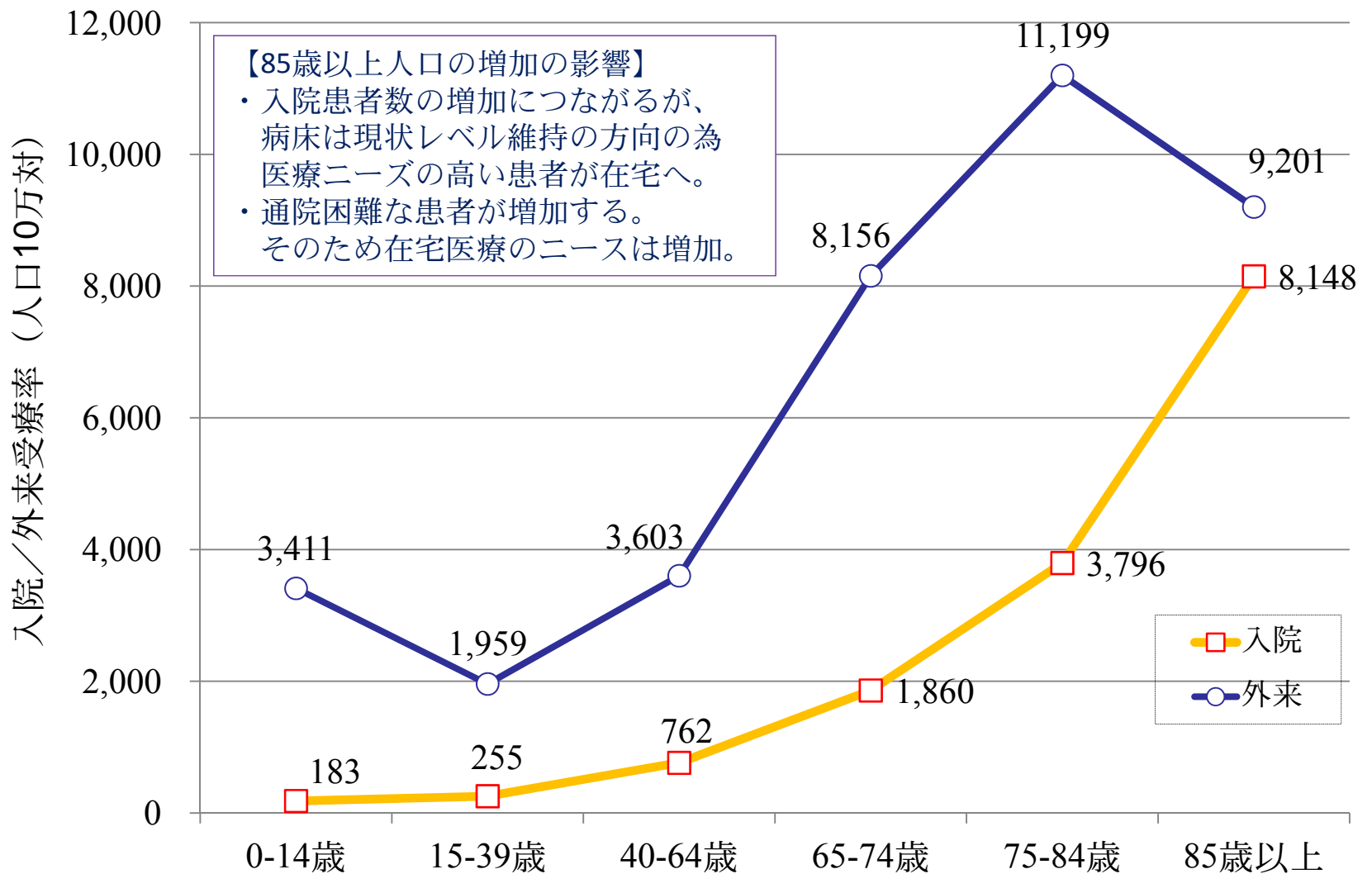
4-1.都市部と郡部の人口構造の変化の違い —2010-2025年間—

	福岡市			大牟田市		
	2010	2025	増加率	2010	2025	増加率
総人口	1,409 (100%)	1,482 (100%)	5.2%	125 (100%)	99 (100%)	▲21.1%
0-14	197 (14.0%)	153 (10.3%)	▲22.2%	15 (11.7%)	8 (8.6%)	▲42.1%
15-64	965 (68.5%)	961 (64.9%)	▲0.4%	73 (58.6%)	51 (51.5%)	▲30.6%
65-74	129 (9.2%)	161 (10.9%)	25.0%	16 (13.1%)	15 (15.5%)	▲6.2%
75以上	118 (8.4%)	206 (13.9%)	74.7%	21 (16.7%)	24 (24.4%)	15.5%

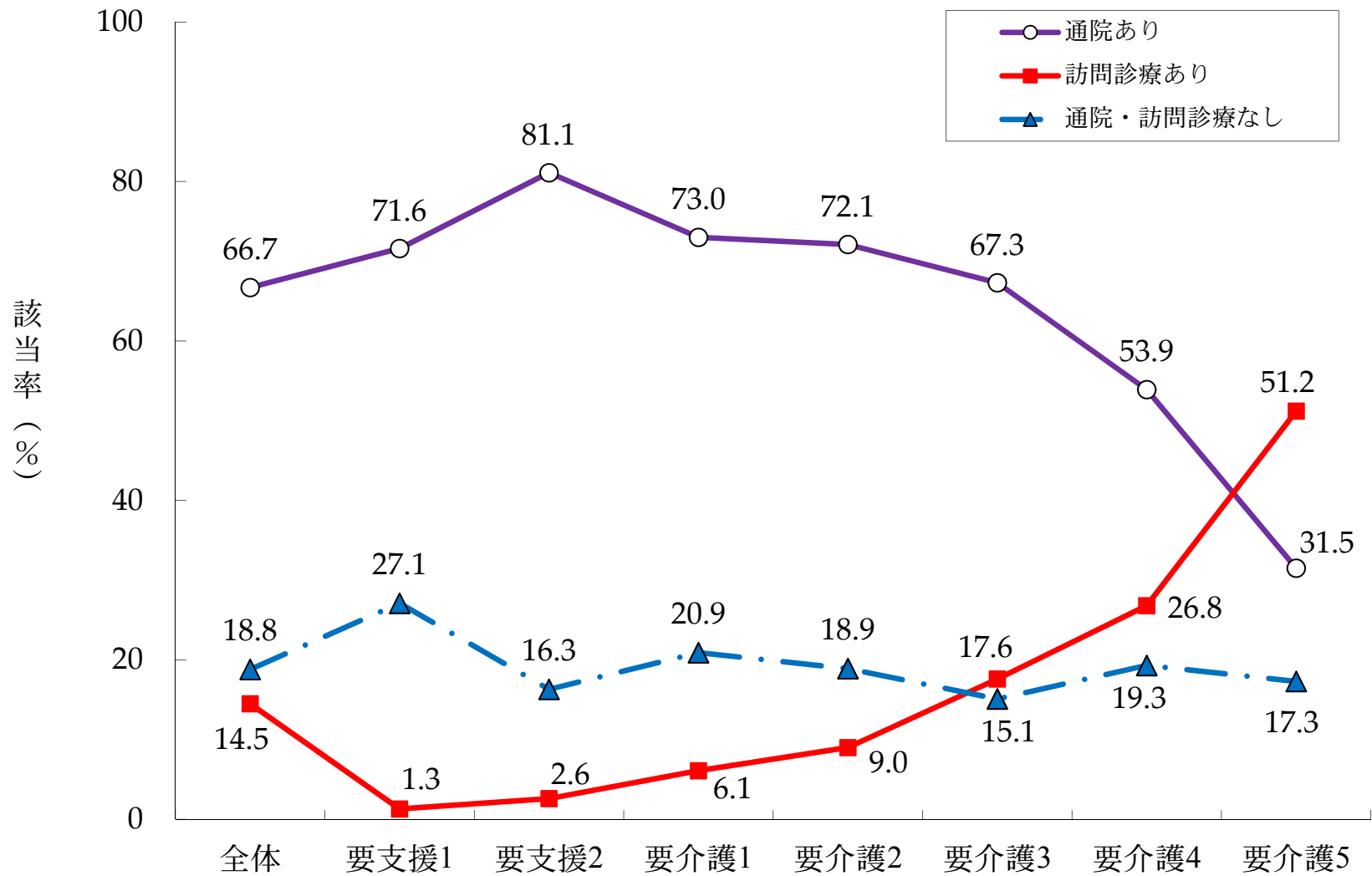


- ・ 総人口は「福岡市」5.2%増、「大牟田市」21.1%減。
- ・ 福岡市は65歳以上で人口が増加（75歳以上は1.75倍に）、一方、大牟田市は75歳以上人口のみ増加。
- ・ 大牟田市では生産年齢人口が30.6%減少する見込み。
- ・ 後期高齢化率は「福岡市」8.4→13.9%（+5.5point）に対し、「大牟田市」16.7→24.4%へ（+7.7point）

4-2. 外来／在宅医療に対する需要の現状①



4-3.外来／在宅医療に対する需要の現状②



4-4.在宅医療／介護サービス提供体制構築上の課題

—都市部と郡部で異なる課題—

【人口構造の変化の特徴】

- ・福岡市では、大牟田市に比べ、75歳以上人口の増加率が現時点でも高くなっているが、今後、その傾向はより顕著となる（特に、85歳以上）
→要介護認定率が高くなる可能性あり。
- ・福岡市の生産年齢人口は今後も現状維持レベルだが、大牟田市は約3割減少する。

【介護サービス整備状況の特徴】

- ・福岡市では、大牟田市に比べ、介護保険施設の整備率が低い。
一方、居住系サービス（グループホーム、特定施設）の整備率は高い。



【福岡市における医療・介護サービス提供体制構築上の課題】

- ・85歳以上人口増に伴う、「在宅医療」「介護」「看取り」必要者への対応策の強化（量的整備の強化）
- ・施設依存の困難さに伴う、「地域包括ケアシステムの構築」の強化

【大牟田市における医療・介護サービス提供体制構築上の課題】

- ・生産年齢人口の減少に伴う、医療や介護従事者の確保策の強化
- ・従事者確保の困難化に伴う、「自助」「互助」の機能強化及び予防の重視